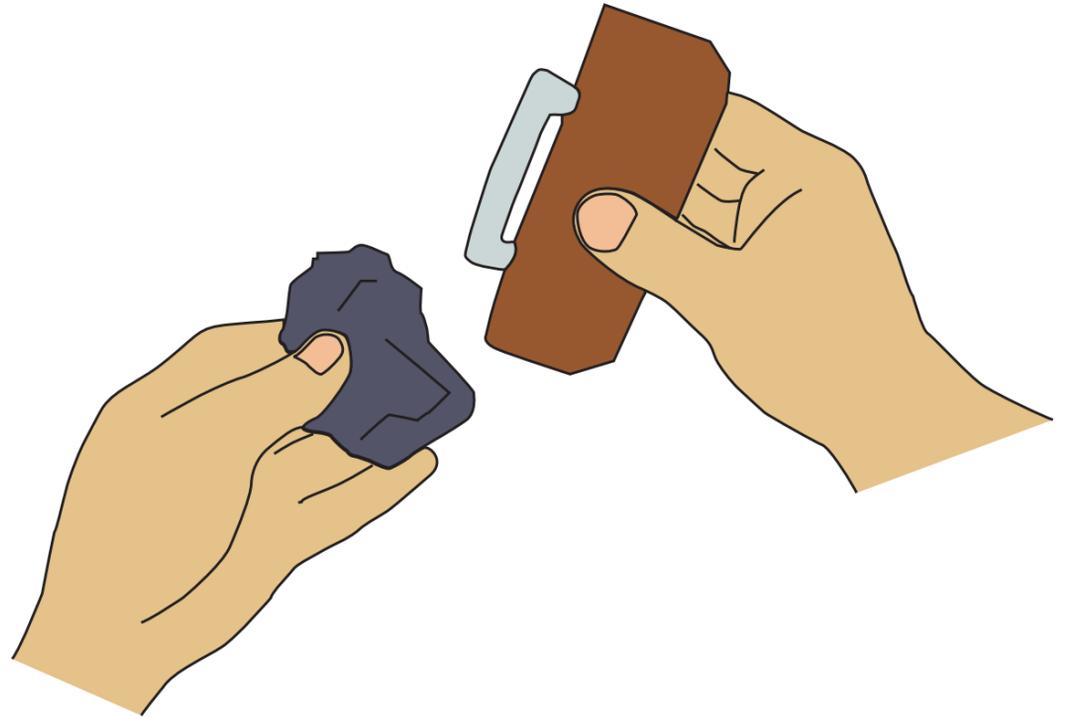


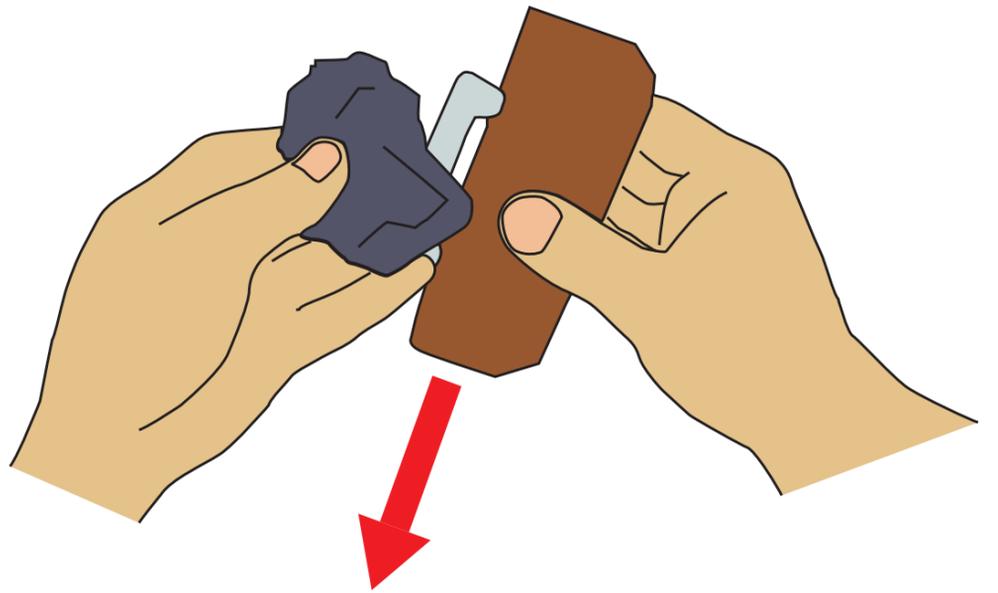
～火打石の使い方～

①利き手に火打ち金、反対の手に火打石を持つ。

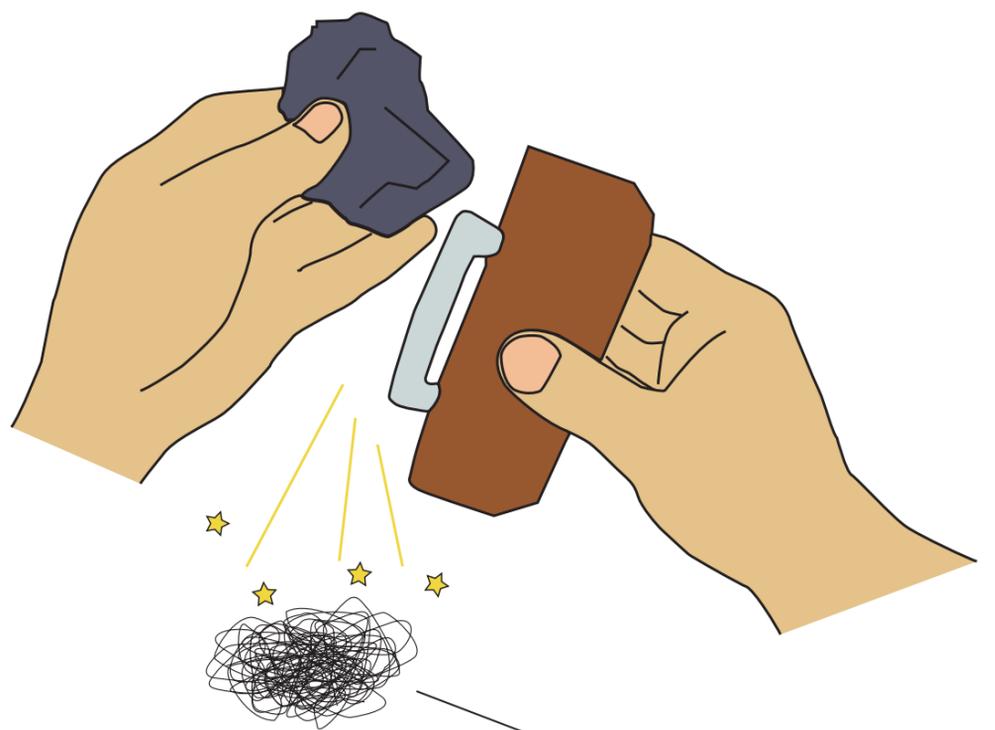
※図は右利きの場合



②火打ち金を火打石の縁を擦るように勢いよく打ちつける。



③火打ち金が削れ、火花が散る。それを火口ほくちに着火し、火種にする。



火口
もぐさ
(綿や藻草などを
材料にした炭)



江戸時代の切り火
※切り火の場合は利き
手に火打石を持つ